



ま
が
し
ん
じ
し



鳳凰堂
平等院

清水三年坂
美術館

〜食品サンプル
作り体験〜
R & M

清水寺



京都
駅

Menu

〜京都・大阪の旅〜
建物巡り

三十三
間堂

龍安寺

平等院
ミュージアム
鳳翔館

〜京都の人気
お土産〜
お土産



清水寺（きよみずでら）は、京都東山の音羽山の中腹に建つ歴史ある寺院です。創建は平安京遷都よりも古く延鎮上人により宝亀9年（778年）に開山されたと伝えられています。

清水寺は始め「北観音寺」と呼ばれていましたが、境内にわき出る清水が観音信仰の黄金延命水として神聖化され、一般にも清めの水として「清水」が知られるようになり、後に名称を「清水寺」に改められました。

そんな清水寺の由来となった清水が、現在でも「音羽の滝」の名水として、観光客に親しまれています。

清水寺の一番の見所は「清水の舞台」で有名な本堂です。崖下からの高さは18mあり、舞台からは京都市内が一望できます。

清水寺は東大路通りから約1Kmの清水坂を上った音羽山の中腹にあり、清水坂は多くの土産物店でにぎわっています。

清水坂の途中には産寧坂や二年坂が接し、京都の一大観光スポットを形成しています。

(Y.M.)

清水寺





〜千一体の「つ」として同じものはない〜

三十三間堂の魅力

三十三間堂は単層入母屋造、本瓦葺の本堂は南北清水寺に細長い造りになっている。長寛2年（1164）、後白河法皇の勅命を受けた平清盛が離宮の1角に創建したのがこの三十三間堂である。

正式には蓮華王院というが、本堂内陣の柱間が33あることから、一般に三十三間堂と呼ばれている。

その全長は約120メートルの本堂（国宝）には、高さ3メートル余りの千手観音坐像（国宝）を中心に、1001体の千手観音立像（重要文化財）がずらりと並んでいる。目がくらくらしそうなほどの光景はまさに圧巻である。

光輝くそれぞれの像が頭上に11の顔を持ち、1本の手が25の苦悩を救済するという40の本の手（ $25 \times 40 =$ 千手）を伸ばしている。

また、千手観音立像の前列には、二十八部衆像（国宝）は立ち並び、堂内両端には雷神・風神像（国宝）も安置されている。濃密な空間はまさに圧巻、この表現は二度目でもあるが目眩がしそうなほどである。

(K.M.)

清水三年坂美術館

幕末・明治時代を中心とした七宝や金工・蒔絵・京薩摩などの工芸品の数々を常設展示している美術館です。

一階では所蔵作品と合わせ道具や工程サンプルなどにより技法や制作過程が紹介され、二階では企画展が三ヶ月毎に開催されています。

所蔵品は、明治を中心に、幕末・大正などその前後の時代に制作された工芸品。蒔絵、金工、七宝、焼物、彫刻などが主体で、硯箱、矢立などの文房具や、花瓶、印籠、根付、煙草入れや煙管、刀装具、帯留め、櫛かんざし等の装飾品まで様々なものがあります。その密で繊細な高度な技術で作られたものばかりです。

インテリアとして家に飾ってもオシャレなものばかりでした。



「↑写真 三年坂美術館チケット」
このチケットの写真に載っているような美術品がたくさん飾られています。

(M.H.)

京都駅の沿革

初代駅舎

1877年2月5日、煉瓦造りの京都駅が完成し開業された。この日には明治天皇臨席のもと、京都—神戸間の鉄道開業式典が行われ、翌日から一般営業が開始された。

3代目駅舎

2代目駅舎の焼失を受けて、1952年に完成した3代目駅舎は鉄筋コンクリート2階建て、横長の建物の中ほどに8階建ての塔が立つという近代的な建築となった。

現在の京都駅は4代目の京都駅である。駅施設の他に、ホテルや商業施設・文化施設などの複合施設でコンコースを中心に、左右に大階段があり谷のような形になっている。天井は非常に高く、ものすごい開放感と広々とした印象を受ける。また、天井の部分には空中経路と呼ばれる通路があり、谷に架かる橋のように見える。

(K.I.)

2代目駅舎

1914年8月に木造の2代目駅舎が完成した。当時の駅舎のデザインで主流だった左右対称ではなく、非対称デザインになっているところは、様式よりも利用客の導線に基づいた機能性を重視した意匠であると思われる。太平洋戦争の戦災も免れた2代目駅舎だったが、1950年11月18日に失火により全焼した。

4代目駅舎

1980年代になると、3代目駅舎はコンクリート造りの近代建築とはいえ周囲の大きな建物とくらべてみすぼらしく見えるようになり、また老朽化も進んできたので、1994年平安遷都1200年記念事業の一環として建て替えが決定した。7人による国際指名コンペを経て原広司氏の設計による地上60mの高層ビル案が採用され、1997年6月に新駅舎が開業した。



京都の人気お土産☆

1位 八つ橋

やはり一番人気で一番有名な和菓子「八つ橋」!!! 八つ橋は米粉、砂糖、ニッキを主原料とした固い焼き菓子のこと。生八つ橋は米粉、砂糖、ニッキを主原料とした餡の入っていない皮（生地）だけの生菓子。生八つ橋を焼くと八つ橋になりますが、おいしい八つ橋を作る為には原材料の調整が違います。

2位 京漬け物

お茶請けやつまみ、ご飯のお供にするならやっぱり漬物!!! 京漬物は、沢山の種類や季節商品があるので、普段食べているものとはちょっと違うものがあります。一番人気のある漬物は「すぐき」です。これは、京都の賀茂で作られたカブラの一種の「すぐき菜」を発酵させたものです。しば漬も、人気があります。賀茂なす、しそ、キュウリをつけ込んであり、刻んでお茶漬けに入れてもおいしいようです。

その他

麩まんじゅう、そばぼうろ、金平糖などの和菓子、最近では、京都発の抹茶ロールケーキなども人気が出ています。また、ちりめん山椒も昔から定番の人気商品です。お菓子以外のお土産として一番人気のあるものは、ようじやのあぶらとり紙です。このあぶらとり紙は、今や全国的に有名になりました。



平等院ミュージアム鳳翔館



「鳳翔館」は、これまで国宝の絵巻、梵鐘、雲中供養菩薩像などの貴重な遺産を収蔵・公開する貴重な役割を果たしてきた宝物館の老朽化に伴い、先端的设备などの導入による収蔵環境の改善を施したミュージアムとして新しく生まれ変わりました。



鳳凰堂を中心に庭園の風致し調和した外観を実現するため大半を地下構造になっている。

エントランスからは、17メートルの高さから自然光が降り注ぐ通路がまっすぐに伸び、正面の格子越しに国宝の梵鐘を透かし見ることができるなど、地下でありながら自然光を意図的に取り入れたり、光ファイバーなどを使用した照明の工夫も設けてあります。

さらに、国内最大のガラスウォールケース（高さ5メートル）を設置、独立展示ケースは5面が透明ガラスで変温恒湿のエアタイト方式で、古語に免振装置を付けた万全の安全対策が設けられている。これによって、鳳凰堂では高所にあってはつきりとは見ることのできなかつた雲中菩薩像なども間近で見ることができるなど、展示物に対する空間特徴を生かす構造にも配慮している。また地上階は、ガラス張りの明るい空間となっており、地下との対照的な雰囲気も素敵でした。

昔の国宝と現代の建築がうまく調和した素敵な空間でした。



(K.N.)

— 平等院 —

平等院は永承7年（1052）、関白藤原頼通によって創設され、鳳凰堂はその翌年の天喜元年（1053）、阿弥陀如来（国宝）を安置する阿弥陀堂（国宝）として建立された。平安時代後期・11世紀の建築、仏像、絵画、庭園などを今日に伝え、「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されている。庭園は浄土式の借景庭園として史跡名勝庭園に指定され、現在、鳳凰堂周辺の洲浜や平橋・反橋、小島などが整備されている。



— 鳳凰堂 —

極楽浄土の宮殿をモデルにした鳳凰堂は、中堂・左右の翼廊・尾廊からなる、他に例を見ない建物。中堂は入母屋造、裳階（もこし）付き。東側正面中央の扉を開放すると、柱間の格子は本尊の頭部の高さに円窓が開けられており、建物外からも本尊阿弥陀如来の面相が拝せるようになっている。阿弥陀如来の住する極楽浄土は西方にあると信じられており、池の東岸（あるいは寺の前を流れる宇治川の東岸）から、向かい岸（彼岸）の阿弥陀像を拝するように意図されたものである。中堂の屋根上には1対の鳳凰（想像上の鳥）像が据えられているが、現在屋根上にあるのは複製で、実物（国宝）は取り外して別途保管されている。さらに堂内には、平安時代を代表する仏師定朝の作であることが確実な現存唯一の仏像、本尊阿弥陀如来坐像をはじめ、雲中供養菩薩像52体、9通りの来迎を画いた壁扉画など、平安時代浄土教美術の頂点が集約されている。なお、「鳳凰堂」の呼称は江戸時代からで、当初は「阿弥陀堂」あるいは単に「御堂」と呼ばれていた。日本の10円硬貨には平等院鳳凰堂が、一万円紙幣には鳳凰堂の屋根上に飾られている鳳凰がデザインされている。

この池は徳大寺家によって築かれたもので、かつてはおしどりが群れ遊んだところからおしどり池と呼ばれた。石庭鑑賞後のひとめぐりも、何がなしほっと心が和むのを覚えるのは、水の効果というものだろう。池の堤防からは龍安寺全景の山々が古来の姿そのままに眺望される。

鏡容池



万丈の北東に据えてある銭形のつくばいは、一見“五・佳・疋・矢”の文字に読まれるが、中心の口を共用すれば、“吾唯足知”(ワレタダタルヲシル)と成り、禅の格言を謎解きに図案化された無言の悟道である。水戸光圀の寄進といわれている。

つくばい

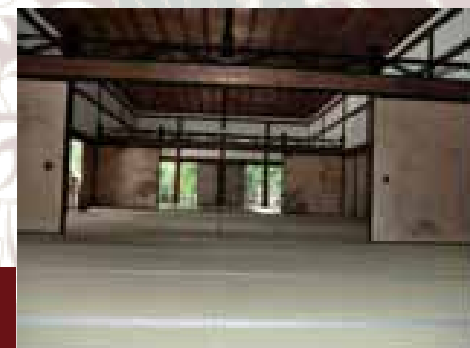


龍安寺

徳大寺家の別荘だったのを、宝徳2年(1450)管領細川勝元が譲り受けて寺地とし、妙心寺の義天玄承を開山として創建されたものである。応仁の乱に焼失して、明応8年(1499)、勝元の子、政元が再興したが、寛政9年(1797)火災で方丈・仏殿・開山堂などを失った。現在の方丈は、そのとき西源院の方丈を移籍したものである。方丈の前庭は枯山水の石庭として著名で、臨済宗妙心寺派に属し、大雲山と号し禅苑の名刹である。

石庭

万丈広間



名高い石庭は正式には「方丈庭園」という。方丈南側にあり、方丈の広縁から眺める。幅25m、奥行き10mの長方形に白砂を敷き詰め、15個の石を配した古山水の平庭。白砂は水を、石組みは山容溪流を表し三方を築地塀で囲み樹木を借景にしている。作者や作庭年代は不詳であるなど謎が多い。禅の境地を表現したものといわれるが、解釈は見るものに任されている。見る人がそれぞれ自由に解釈すればよく、それがこの石庭の最大の魅力でもある。この庭は、15の石が東から西へ5・2・3・2・3で配置されていることから「七・五・三の庭」とも、石の配列の妙から「虎の子渡しの庭」とも呼ばれる。どの位置から見ても、一度にすべての石を見ることができない不思議な造りだ。

R&M ～食品サンプル作り体験～



ゼミ旅行三日目は、大阪の R&M で念願だったサンプル作りを体験しました。天ぷらは料金に応じて三つのコースから選べますが、今回はレタスと天ぷら三品コースに挑戦。(他のコースにはプラス茄子やカボチャなどがついていきます)

サンプルの材料は色づけされた液状のロウで、何で色づけしているのかは企業秘密だそうです…

まずはレタスの作り方ですが、お湯にロウを垂らして冷めた部分を持ち、そのまま下方向に引っ張って葉を広げるのですが……熱い！液状の部分があたるととにかく熱い！！

次に広げた葉を丸めていくのですが、綺麗に丸めるのが予想以上に難しいです。

この行程を繰り返して、最後に半分に包丁で切ったら完成です！

【食品サンプルの謎】

この身近な食品サンプルですが、その歴史は意外と不明な点が多く、発祥や技術の開発者等に関する資料は残されていないそうです。しかしながら、食品サンプルは100年前には既に存在していたそうです。



天ぷらは難易度が優しい順に、さつまいも、えび天、ししとうの順番で作製。

衣を作ってその上に具材をのせたら素早くクルン！クルン…うまく巻けない！

水で冷まして出来上がりですが、私が作ったロウが多すぎて蜂蜜がかかったような天ぷらに…(写真の天ぷらは友人のもので)

ちなみに…

帰ってから見てみると、レタスがボロボロに割れていました…持ち運びには十分気をつけてください。



これは、環境デザイン研究室の3年生が作成する研究室マガジンです。

**実践女子大学
生活環境学科
環境デザイン研究室**